

国労

蘇我運輸区分会ニュース

拡大分会長会議

1月15日（土）13時～県教育会館

ほんの数年前までずっと、新年を迎えるの最初の行事が地本旗開きでした。労働講座の後は酒を酌み交わしながら、久しぶりに顔を合わせた仲間たち、各政党代表、地域共闘の仲間なども交えて、1年の決意を語り合う大切な行事でした。この2年ほどは、コロナウィルスという厄介者に振り回され、地本行事、分会行事もことごとく中止になり、淋しい状況が続いているのは周知の通りであります。「意思統一の目的もある」という地本越川副委員長の開会あいさつにもあったように、こんな状況でも運動は止められないことを改めて思いました。規模は縮小かもしれませんが、開催にあたって地本役員の見地に感謝します。

加藤委員長あいさつ

コロナを理由にして会社は10年前倒しで合理化施策を実施しようとしている。春闘では定期昇給にまで手をつけ



てきた。各会社もそれに

議題

做い強気になっていくのが予想される。JR本体だけの問題ではない、国労だけの春闘ではない。正念場となる。労働条件改善も組織強化拡大もまだまだあきらめる状況ではない。運動を全体のものとして取り組んでいく。時間も多くは残されていないが、労働運動を職場に残す取り組みの強化をしていく...と、力強いあいさつがありました。

職協・分会からの報告

提起を受けて、千葉建築、木更津運輸区、千葉機関区、茂原、千葉運輸区、新小岩保線区（それぞれ分会名）と、工務協より報告がありました。

③では、特に駅職場分會から、職場が広範囲に広がり、コロナ禍も併せて、情報交換も難しく、集まりづらいので、組織

（分会）再編は早急にやっしてほしいと切実な思いが訴えられました。

①では地本から、代表を勝ち取って運動をし易くするのは究極だが、取るためにどうするか、何をどう訴えていくのかそこが重要...といった提起がありました

が、更に選挙を通じて労働組合に入ることが必要だと認識させることが大事だと思う。そういう



ったことを考えながら取り組んでいきたいとの報告が印象的でした。

④に関しては、地域住民の足を守る、移動権を確保するのは、政治との関わりも必要なのではないか。組合員全員が共通認識するための取り組みを考えていく...等々の報告がありました。

集約・まとめ

北嶋書記長より、会社施策、組織再編問題、代表選挙等の今後の取り組みが述べられ、閉会となりました。

労働条件を改善出来るのは、労働組合だけ！